

爲したるものなり、吾人彼に負ふところの恩甚だ大なり、夢寐に之を追懐することなくして可ならんや、且つ其行事吾人の典範となすべきもの多し。

彼は十有五にして、詩を賦し且つ易理を解す、其夙慧驚くべし、たゞ其剛愎悍、長者を凌ぎて、制すべからざるものあり、八九歳の頃ならん、藩の老職恩田頼母の子と相闘ひ、罵りて曰く、家老の餓鬼などに、道理が解るものか、聞きたくば聞きに來いと、人之を彼の父に告ぐ、父戒めて曰く、汝既に人に對つて、道理云々の語を發す、自ら道理を知らざるべからずと、一室に幽して一意讀書を勸む、彼が少壯にして、學を好むは茲に根す、父も亦尋常の人にあらずるを知るべし、彼が二十歳以前學ぶところ、單に讀書のみにあらず、算術、馬術亦精妙と稱せらる。

此時西洋の潮流、日夜東洋に向つて注ぎ、支那に於ては阿片亂の大波瀾を起せり、我邦も何時しか、其盤渦中に捲入せられざるを得ず、海内の志士邊防を説き西洋風の銃砲を講ずる者多し、伊豆韭山の江川太郎左衛門(名は英龍號は坦庵)殊に新式の火術を善くし、各藩の子弟其門に集る、象山亦其名を聞きて、伊豆

に赴く、時に齡三十二、血氣正に旺にして、飛龍冲天の勢あり、江川が門生を取する甚だ嚴、日々武を練ると稱して、狩獵を事とするより、象山大に望を失し、故意に日課を勉めず、居ること僅に四十日にして門生の藉を削られ、去りて江戸に歸り、下台根桂園に就て、洋式の砲術を學び、其所藏の譯書を寫すに、解し難きに苦めり、一日蘭醫の大家坪井信道の家にて、机上の小冊子を見、披きて閱すれば、和蘭の兵書にて、銃砲の圖畫精巧目を駭かすばかり、己れが常に模寫せる譯書のものとは同日の論にあらず、是に於て、彼れ歎息、横文を學ばざるを悔ゆ、信道其色を察し、足下蘭學に志あらば、余が門生黒川良庵と云ふ者を薦めんと、象山大に喜び、爾來良庵を家に置きて、専心に蘭學を修む、是れ象山三十四歳にして、名聲既に士林に喧傳する時、身を一醫生に屈して、横行缺舌の字を學ぶ、天下に爲すあらんと欲するもの、自ら常人と異なれり、其翌年郷人竹村某に與へたる書柬に曰く、

昨年來再び童子輩に罷成、洋學に取掛り、此節宅に差置候黒川生(即ち良庵なり)も歸省に候得ば、折々深川邊迄も、麴町邊迄も、風塵暑雨をも避けず通ひ

候て、不分明の處を搜り申候様に仕り、夜分も九つを聞かずに臥せり候と申事は無之候云々。

と一世の英傑江川太郎左衛門の規矩にさへ従はざる傲岸不屈の性を矯めて、童子輩に罷成りと自ら嘲けりつゝ、節を折つて勉學するところ、資りて模範となすべきなり。

象山の人となりを説く者皆其傲慢人を凌ぐ癖あるを擧ぐ、されども彼が一代の大人物たる點を察するに、豈唯漫りに傲慢人を凌がんや、嘗て聞く象山嘗て林鶴梁と交る、鶴梁は文章を以て當時海内の鉅匠と稱せられたるものなり、象山の執拗剛愎を厭ひて斷然交を絶つ、鶴梁一日藤田東湖、羽倉簡堂、鹽谷宕陰の諸名流を招きて講書會を開く、半にして象山突如函を排して入り、鶴梁に謂つて曰く、足下のために絶交せらるゝと雖も、今日諸大家の來會と聞き、偏に陪席の榮に預りたし、失禮を願みず推參せりと、鶴梁笑つて之を許すと、是によつて觀れば彼の性、空齋の微も己れを益する事のためには、忍ぶべからざるを忍び、以て智見を長せんとす、涓滴の水も、合して江海となれば、能く鯨鱈を

浮ぶ、零細の智も、集めて大成すれば、天下を動かすに足る、象山の如きもの常に此見解を持して、居恒孜々として怠らず、開國の偉人として、尊崇せらるる亦宜ならずや。彼が遭難前郷里に寄せたる書柬に曰く、

若し此方の身に災にてもかけ候事有之候は、日本は最早大亂と存可申候、甚だ分に過ぎ候事を申様に候へども、當節の議論、日本國中の命脈は、此身に有之と存じ、此御國と存亡を共に致し候了簡故に、人々いろく申候ても、更に畏れ候事無之、心中何時もやすらかに存候。

と此大抱負と、自信力の強きを觀ても、彼が修養の深きを知るべし。

幕末の大立者、明治の大久保彦左衛門と云はれし勝海舟は象山の門下生なり、而も象山勝の妹を娶りて妻とせり、師弟の關係に兼るに、姻婭の親を以てす、然るに海舟嘗て象山を評し、輕卒の風ありとなす、蓋し至誠國を憂ひて、自ら任する甚だ重く、乃公出ですんば蒼生を奈何せんとの意氣あるがため、禍難の身に及ぶを慮らざる、ところ却つて輕卒に似たりと云ふならん、されども象山自ら運命を卜して曰く、

時にあはれ散るもめでたし山ざくら

めづるは花のさかりのみかは

と既に一死を以て國に許す、眞に國士の風ありと云ふべし。

二十九 吉田松陰の「慷慨」

十七八の死が惜しければ、三十の死も惜し、八九十百になりても、是で足りたと云ふことなし、草蟲水蟲の如く、半年の命のものあり、是以て短しとせず、松柏の如く數百年の命のものあり、是を以て長しとせず、天地の悠久に比せば、松柏も一時蠅なり、只伯夷などの如き人は、固より漢唐宋明を經清に至りて、未だ滅せず、若し當時太公望の恩に感じて、西山に餓死せずば、百まで死せずとも短命と云ふべし、何年限り生きたれば氣が濟むことか、前の目あてもある事か、浦島、武内も今は死人なり、人間僅か五十年、人生七十古來稀、何か腹のいえる事を遣りて死なねば、成佛は出來ぬぞ。

と最も痛快剝切にして、直截簡易なる處世訓、死生を一如と悟りて、大丈夫の抱負を示したるもの、是れ維新中興の急先鋒たる長州の志士吉田松陰が、其門生品川彌次郎に與へたる書簡の一節なり、嗚呼、彼れ三十歳に至らずして、身を刑場に横ふと雖も、他の碌々爲すなきの徒が、百歳の壽を保ちたるよりも、悠久に生命あり、彼れは能く其言ふところに負かず、眞に大丈夫の本領を知るものと云ふべし。

松陰が佐久間象山の指導によりて、海外の事情を探らんがため、國禁を破り、米艦に乗らんとして、縲紲の人となるや、幕吏は審判の末、宣告書を作りて、其經歷を述べたり、其肩書に曰く、

松平大膳太夫家來、杉百合之助二男にて、厄介致し置候浪人吉田寅次郎

と、今日なれば山口縣士族の五字にて足るべきところを、滑稽にも長々しく書立てたるものかな、次に

其方儀……兼て御爲筋の儀を存じ量り、且は舊主の恩義も有之、旁非常の功を立べくと心掛候處、去夏以來異國の軍艦、近海へ渡來致候趣承り及び、深

く心痛の餘り、西洋へ渡り國々の風俗、軍備等悉く研究可致と、修理佐久間象山とも及議論候處、當今の形勢、彼を知ること急務にして、間諜細作を用候外、良策無之候得共、重き御國禁に付、官許は有之間敷、自然漂流の體に致し成し、事情探索の上、立歸り候は、御國の爲にも可相成旨申聞、兼ての内存と符合致し、頻に西洋周遊の念差起り、去秋長崎表へ渡來の魯西亞艦へ身を托す歟、又は漁船を雇ひ渡海可致と、九州筋遊歴の積にて、修理方へ暇乞に罷越候處、其胸間を察し、送別の詩作を贈る、其詩に曰く、

幕吏は松陰の傳記を此の如く綴りて、象山の詩を引用せり、裁判の宣告書に詩を挿入せる、幕吏の風流想ふべし、而も當時ノンキなる有様も亦髣髴として眼前に現はる、が如し。

之子有靈骨。久厭蹙蹙群。奮衣萬里道。心事未語人。雖則未語人。忖度或有因。送行出郭門。孤鶴橫秋晏。環海何茫茫。五洲自爲隣。風流窮形勢。一見超百聞。智者貴投機。歸來須及辰。不立非常功。自後誰能寶。

志を通じ候に付、彌奮發致し、長崎表へ立越候得共、一旦退帆後にて、便を

不得、歸府致し候後、浦賀表へ亞墨利加船渡來、神奈川沖に碇泊罷在、退帆可致承り及び、宿志を可遂と存じ、竊かに澁木松太郎事重之助義も同志に候連立ち、横濱村へ罷越候處云々。

現今は二十萬の人口を包有して、我邦第一の要津たる横濱港も、此時は猶横濱村たりしなり、右の宣告書は、次に松陰が漢文の哀願書を米艦に投じて、乗組に加へられんことを請ひたる次第を述べ。

重き御國禁を犯し候段不届に付、父百合之助へ引渡し、於在所塾居申付る、と斷案を下されたるなり、時に嘉永七年九月十八日、彼が齡幾何と問ふに纔かに二十三歳の青年なり、漢文を以て、米艦の將校に請ふところあらんとす、其行の奇矯にして、常軌を失へるは聊か議すべしと雖も、二十三歳の青年にして、憂國の赤心禁じ難く、身の刑辟に觸るゝを忘れて、域外萬里の周遊を試みんとす、其志氣の壯、忠憤の切なる、何等の素養あつて然るか、

松陰の家は、長藩に於て代々兵學師範の門閥なり、されば彼れ夙に武士道の權化たる山鹿素行の武教全書を研究して、武士道の真髓を得たりとなし、語の素

行に及ぶ毎に先師と稱す、素行の死と、松陰の生と、相距ること殆んど百五十年而も師弟を以て自ら任ず、敬慕の深き知るべきなり、象山の門に入りて砲術を學びしは、彼が甫めて二十歳の時、されば自ら吞牛の氣ありて、先づ象山の膽力如何を検せんとせり、象山の傲岸容易に人に許可せずと雖も、松陰を一見非凡の英才たることを看破して、肝膽相照すに至れり。

彼は米艦搭乗の志成らずして、累を象山に及ぼし、己れは郷里に幽せられしが、松下村塾を開きて、一藩の子弟を薰陶し、維新の際、長州出身の元勳は、多く其門下に出でたり、然れども彼は其盛時を觀るに及ばず、安政戊午の大獄に、一網打盡の中に入り、數多の志士と頭を聯べて死に就けり。

松陰嘗て士規七則を作り、自ら律し、併せて他を戒む、其の一に曰く、
死而後己の四字、言簡にして義廣く、堅忍果決確乎抜くべからざるもの、是を舍て術なしと。

されば彼が理想とし、模範とする所の人物は、支那にありては、諸葛孔明、日本にては山鹿素行、佐久間象山なり、時勢を識るは俊傑なりと云ふ見地より、

學ぶ所を擇みしものゝ如し。

三十 勝海舟の『卓識』附維新諸豪傑

予嘗て翁を氷川河畔の老樹鬱葱たるところに訪ふ、時正に日清の役終りて、遼東還附の問題を議する者、朝野の間に囂々たり、翁は質朴瀟洒なる八疊の書齋に、銀髯を捻りつゝ、悠然靜坐して、人間の俗事は、絶て預り知らざるものゝ如し、予の刺を通じて謁を請ふや、翁は直ちに命じて其書齋に入らしめ、
此死損ひの老爺に、何の用があつて來たね、生きて居るうちに一度見て置きたい、アハ、アハ、それではモ一見たから、直歸つたらどうだい、と炯々たる眼光予が面を直射して、談笑自若の中に、一種犯すべからざるの威嚴を具へ、人をして自ら畏敬の念を生せしめたり、而も談屑霏々として、盡るところを知らず、談叢の中に諷刺を寓して、言々肯綮に中り、其世故に練熟し、事態に通曉するもの、流石幕末第一の人豪たるに負かずと、竊かに感歎したりき、當時予が親

しく翁より聞く所の一斑を左に誌さん。

何でも人間は、死たいと云ふことを始終忘れずに居れば宜いよ、死ぬと云ふ決心程強いものはないからね、老爺なども難儀な時に生れ合はせて、徳川三百年の尻拭ひをどうやらして来たのも、たい此死の一念を忘れないで居たからよ。

ナニ今となつては、安樂の身の上だから、そんな覺悟は入るまいと云ふのか、馬鹿な事を……今でも伯爵の華族様が、借金でも残して死んで見な、それこそ勝も愈々巻けたと笑はれるだらう、明日も分らん老爺の、死支度は先づ義理の悪い借金でも拵へないやうにするサ、どうだいお前などは、今こゝで往生しても、家のはうは大丈夫か、矢張死切れないだらう、男子たるものが死切ないやうな事をして置いては、何事も出来んぞ、アハ……少しは解つたか。老爺の生立は、至極つまらんものよ、四谷お箆筒組の小旗本で、五十石に足りない祿を頂戴して居たからナ、身分も極輕いのよ、漸く頭を上げたのは、四十前後からよ、咸臨丸に乗つて、亞米利加へ往つたのが、確か三十八の時

よ、兎に角日本の軍艦が、始めて西洋へ往つた皮切だからね、歸つてから大に賣り出した筈さ、人間は餘り年の若い中に賣り出しては不可ないよ、瓜でも茄子でも、モヤシは珍らしいと云ふだけで、齒ごたへがない、お前などもまだく先は長い、緩り實を入らせてから、市場へ持出すが宜いよ、周章るのは損だよ、若し死んだらどうする、それはそれまでの運命だ、此老爺も四十以前に死で見た、伯爵は借置で、轎夫にもなれなかつたよ、アハ、此の如きの類一々擧ぐるに勝へず、何れも自己の經歷に徴して、談話の中に、知らず識らず處世の秘訣を教示し、半日の清談に、予は終身の護身符を得たるが如き想ひあり、談話稍倦んで、翁は手づから紙障を排す、綠陰濛々として主客の鬢眉を染め、青苔海の如く履齒の痕を絶ち、黄蝶の翩々たる處、一株の栢榴、紅燃えんと欲す、予辭して歸らんとするや、
まアお待ちよ、御馳走をして上げるからね、
と老婢に命じて、晝餐の膳を持來らしめ、
さア食べて御覽、中々御馳走があるよ、ソラこれが肥前の五島から贈つて來

た鯨だ、それが越前の海膽、秋田の落もある、どうだい美味からうね。

と初對面の窮措大に對して、恰も自家の愛孫に於けるが如く、温乎たる其容、蕩乎たる其言、尊卑の分を徹去して、些の城府を設けず、直に赤心を人の腹中に推すの感あり、爲めに予は最初に於ける畏敬の念を忘れて、言動の不恭に涉りしものもありしならん、今にして之を想ふも、此の如き好々翁は、予の知れる範圍に於て、未だ一人も其匹儔を見ざるなり、翁は此時七十三歳、其後四年を経て、明治三十二年一月二十一日七十七歳にして長逝せり、嗚呼、面目髣髴として、猶眼前に在るを覺ゆ。

維新の三傑と稱する木戸孝允、大久保利通、西郷隆盛、翁より見れば後進なり、吉田松陰は翁より少きこと八歳、坂本龍馬も翁より少きこと十二歳、翁と相對して龍拏虎攫の活劇を演じたる諸豪傑、何れも翁に比すれば年少なり、而して當時名望の隆々たる隠然諸豪傑を壓するものあり、されば身を順逆の間に置いて、勤王黨には一敵國の如く狙はれ、佐幕黨には君を賣るの奸物と誤認せられ、飛丸頭を掠め、白刃膚に通るも、從容として、萬事の措置機宜を誤まらず、

一炬焦土となるべき八百八街を、安穩に保護して、一旦朝敵となりし徳川の祀を永久に存立せしめたるもの、實に此翁の力なり。

翁皆て近代の諸豪傑を評して曰く。
此方が殺されるつもりでも、本氣で殺しに来る者は中々ないよ、おれを本氣で殺しに来た奴は、坂本龍馬一人ぐらゐだ。

佐久間象山は中々先の見えた男だが、餘り人を馬鹿にし過ぎて居た、人物としては吉田(松陰)のほうが眞面目で確りした男サ、
何と云つても人物は西郷だ、あの位大きいのは珍らしい、後は大抵時勢に驅られてエラさうに見えるのよ。

と翁の眼中にはさもあらん。
ア、徳川氏の興るや、猛將勇士雲の如く林の如し、而して其亡ぶるや、翁一人によりて幕を閉ぢたり、翁が一代の人傑たる此一事を以ても知るべし。

伊達政宗の遺訓

仁に過れば弱くなる。義に過れば固くなる。禮に過れば諂となる。智に過れば虚をつく。信に過れば損をする。氣長く心穩にして、萬に儉約を用ゐて金を備ふべし。儉約の仕方は不自由なるを忍ぶにあり。此世の客に來たと思へば何の苦もなし。朝夕の食事甘からずとも、褒めて食ふべし。元來客の身なれば、すき嫌ひは申されまじ。今日の行おくり、子孫兄弟の挨拶をして、娑婆の御暇申すがよし。

偉人修養史 大尾

明治四十一年七月五日印刷
明治四十一年七月九日發行

正價金五十錢



著作者 破魔禪

發行者 伊東芳次郎

印刷者 山田英二

印刷所 博文館印刷所

東京市本郷區本郷二丁目九番地
東京市小石川區久堅町百〇八番地
東京市小石川區久堅町百〇八番地

發行所

特約大賣捌所
特約大賣捌所

東京市本郷區振替貯金口座一七一
本郷二丁目九番地電話下谷一九三八
東京市神田區表神保町三
振替貯金口座二七〇
大阪市東區南渡邊町四十三
振替貯金口座二八二三

東亞堂書房
東京堂書店
杉本書店

東亞堂出版圖書大賣捌所

東京神田	上田屋	京都市	若林書店	札幌市	富貴堂
同神田	武藏屋	名古屋	川瀬書店	弘前市	今泉書店
同神田	勉強堂	同市	星野書店	新潟市	萬松堂書店
同神田	二松堂	同市	三輪玉潤堂	長岡市	目黒書店
同日本橋	北隆館	神戶市	吉岡寶文館	廣島市	友田書店
同日本橋	至誠堂	岡山市	奥田金正堂	群馬縣	岩岸書店
同日本橋	林平次郎	廣島市	積善館支店	群馬縣	岩岸書店
同日本橋	文林堂	久留米市	菊竹書店	其他全國	
同京橋	前川書店	熊本市	長崎書店	著名書林	
同京橋	東海堂	大分市	甲斐治平		

東亞堂出版圖書大賣捌所

●天下如斯の偉功ある健康長壽の祕法ありや？

足立栗園先生著

新刊
心身鍛鍊養氣法

大判全一冊美裝
正價五十五錢
郵税六錢

天地に生々の氣あり、人之れに依つて生く、故に常に氣を養ふ者は元氣旺盛、よく百歳の壽を保ちて心身鐵石の如きを得ん。孟子の「善く浩然の氣を養ふ」と云へるも、亦何ぞ之に過ぎん本書は即ち氣血調和の原理により此の養氣の祕法を説きて飲食、間房其他諸種の慾望の節すべきを戒め、進んで古來偉人先哲が心身鍛鍊の實驗に徴して、以て剛毅不撓の大氣力を養成せしむ、眞に救世の一大名著也。

堀内新泉先生著

〔後篇〕六月中出来

新刊 立志 全力の人

前篇 定價六十五錢 郵税八錢
後篇 定價 郵税

夫れ全力の人ならずして、誰か笑んぞ世に光輝ある大業を成就せむ。嗚呼全力の人なる哉、嗚呼全力の人なる哉。全力の人岩井健一の剛健なる意志と、高潔なる心操と、そが世路の險を歴、幽を窮めて後始めて麻ち得たる成功の活教訓とは、著者が靈原の詩筆を俟つて、勞れたる者には新たなる活精を興へ、敗れたる者には温かき慰安を興へ、以て讀む者をして、閃然として天來の氣呵に感じて、蹶起奮奮せしめずんば已まざらむとす。近時立志小説中の巨擘たるもの：

報知新聞記者

熊田葦城先生著

新刊 少年武士道

三浦北峽先生畫

少年は第二の國民である、これが志氣の強弱は、國家の隆替に消長する所甚だ大きい、是非共これに鼓舞激勵せなければならぬ。本書は此の目的を以て著はされたもので、古來英雄豪傑が、其の幼少の時代から、所謂「蛇は寸にして其氣あり」とも稱すべき雄壯なる物語を辨め、之れを叙するに熊田葦城先生が獨特の豪宕雄壯なる行文を以てせられたもので、之れを讀んで發奮せざる少年は恐らくあるまい、昔しから武士道の精神たる、我が神州の家庭には是非一本を飲いてはならぬ。

▲中判裝……全一冊二百餘頁……定價四十錢……郵税六錢▼

●曾て報知新聞紙上に連載して噴々たる好評を博したるもの……其の内容の如何は世に定評あり！

報知新聞記者

熊田葦城先生著

新刊 少年武士道

三浦北峽先生畫

〔第二〕

本書は第一少年武士道に收められた以外の、小英雄四十人を輯めたものである。第一少年武士道を閉讀せられた諸子は、亦必ず本書をも併せ讀むの必要があらう！

▲中判裝……二百餘頁……定價四十錢……郵税六錢▼

大内青巒居士序 釋 悟庵師著

再版 禪と修養

大判全一冊 定價五十錢 郵稅八錢

古來修養の方法として禪の卓効あるは世已に定評あり、然かも近時
參禪究せるの徒の、徒々にして常軌を逸し、日常の大事を閑却し
て、徒らに出世間的の行爲を以て得たりとなす者多きは、豈寒心の
至りならずや、悟庵師深く此禪病の怖るべきを憂ひ、大悲の鐵槌を
揮つて、禪と修養との關係を喝破し、以て解脱悟道の正門に導かん
とす。苟も禪の眞面目を知りて、修道の針路を過まらざらんと欲せ
ば、來つて本書の濟度を受けよ。

好評 再版

加藤咄堂君新著 雄辯法

加藤咄堂君の演壇に立つ事、茲に二十餘年、今は君の大名を耳にする者、
後忽としてその演壇抑揚に富める機軸の辯と、莊重にして一種人をして感
奮せしめずんば已まざるの聲響とを聯想せざる者なし、君の如きは蓋に雄
辯術の神に入れる者と稱すべし。本書は君が其多年の實踐と修辭學、聲
學等の原則を基礎として、思想排列表、首語排列表、演說組立法、聲響使
用法、演說の態度、尊壇の心得等に亘り演說、講義、座談等の要訣を詳述
せられたるもの。君にして雄辯法を脱く、以て其學問の俗書に非ざるを
知るべし、苟くも志を當世に存するの士は、速かに本書を讀みて、文明的思
想表現術の眞利益を享受し給はんことを。

▲大判全一冊……上製七十錢……並製五十錢……郵稅八錢▲

好評 再版

愛生病院長醫學士 木村麟太郎君閱 腦力養成法 漆山又四郎君著

文明の競争は實力の競争也。詩人たり、學者たり、學生たり、教育家たり、
事務家たり、實業家たりとに論なく、優勝劣敗の岐るゝ所、一に腦力の強
弱如何に關す。腦力の養成發達に附すべけんや。著者漆山君は刀圭の學
に於て造詣深き之士、近者世人の腦神經衰弱其他種之病症に關する者多
きを慨し、其積年の積蓄を傾注して、生理學、醫學等の機軸より、腦力の使
川法、睡眠時長短の得失、有効なる腦の休養法、腦力増進の原理方法等
を説き、進んで種種の腦病の治癒法を詳示せらる。而かも文辭暢達、之を
行に言文一致体を以てし、多大の興味を以て讀了せしむるの妙あるは、
更に本書の特長とする所也。何種の職業たるを問はず、苟くも健走積極の
優勝者たらんと欲するの士は、必ず一讀の勞を省じべからず。

▲洋裝全一冊……總振假名付……定價四十五錢……郵稅六錢▲

好評 再版

渡邊無邊俠禪題詞 禪と活動 破魔禪君著

古來英雄豪傑の、克く死生の境に出入して、尙且つ泰然として所謂電光影
裏斯存風塵の大勇斷を能くし得るもの、悉く之れ禪機より得來れる眼線
の結果に外ならず。宜矣近時軍人政治家等の參禪工夫する者日に多きを加
ふるもや。本書は禪の活機を悟得して、之を活社會の人事百般に應用する
の道を示し、假令首尾離換すと雖も、獅子吼一番、克く奮直に進前して迷
惑するなきの大膽力を養成せしむ。與響鐘、生死透脱の大白在境に安住
して、以て欲する所を行ひ、志す所を遂げんと欲するの士よ、乞ふ活眼を
開いて此活符を讀め。

▲洋裝全一冊……休養活……定價四十錢……郵稅六錢▲

黒岩周六君序

増補 冥想論

加藤咄堂君著

坐禪論

幸田露伴君序

訂正 冥想 朝思暮想

加藤咄堂君著

加藤咄堂君著

新刊 修養 話し草

六月上旬發賣

戦後我國は一躍世界の大舞臺に一大躍歩を試み、國民品性の修養を要する今日より急なるはなし、本書は著者が該博の識と流麗の筆とを以て、品性修養の根柢たる冥想を各種の方面より論究し、獨坐靜思の快感を説きて、其論と方法とを詳叙し、進んで禪の奧秘を闡明して、其成の法に及ぶ。加ふるに冥想雜感の一篇は、實に君が半生の思想史とも稱すべき物にして、奇想縱横、趣味滿幅、世の修養に志あるの士本書を讀まば、曉悟する所必や大ならむ。▲菊判全一冊：二百餘頁美製本：定價五十錢：郵税六錢

朝に思ひ、暮に想ふ。朝に思ふの時には希望のほゝるみあり。暮に想ふの時、誰か追悔の涙なからむ。本書は咄堂加藤氏が、行住の間、冥想の餘事に關し、物に擬し、深刻の同情と、高遠なる理想とを寓して、吾人が修養處世の妙諦を指示せられたる物。其詞藻の華麗なるは、燦として宛かも百花の芳を競へるが如し。之を現代文章の模範と稱すども亦溢美の言にあらじ。尙も文を談じ、修養を口にすの士は坐右一本を備へざるべからず。▲全三冊：定價各冊卅錢：郵税各冊四錢：合本上製六十錢：郵税八錢

本書は加藤先生が吾人が趣味性の修養を旨とし、其該博非凡の識を以て、古今に亘り、東西兩洋に及びて、興味ある諸種の奇聞逸話を輯集し、之を行るに君が輕快瀟灑の筆致を以てせられたるものにして、一讀抱腹絶倒に堪へざらざるものあり、痛然として襟を正さしむるものあり、又凄然として中夜馬を天山に驅るの志を思ひしむるものあり、機軸の裡に教訓を與へ、談笑の間に天來の氣呵に洒れしむ。人格修養の餘師として又文章演說の材料として將た又社交の談柄として眞に机上の好友、袖中の清涼劑たるに背かず。▲袖珍全一冊：体裁瀟灑：定價四十錢：郵税六錢

好評 五版 人格之養成

加藤咄堂君著

夫れ大なる人格を有せざるもの、奚んぞ世に立つて光輝ある偉業を成就し得べけん。本書は著者が熱烈なる同情の筆を揮つて人とは何ぞやとの疑問を解決し、進んで人格の根柢を闡明して、常識の涵養、趣味の啓發、意志の鍛鍊等を説き、平凡を化して偉大ならしめ、懦弱を轉じて崇高ならしむ。眞に吾人が向上の新福音也。▲菊判全一冊：體裁清雅：定價五十錢：郵税六錢

高評 三版 人格と運命

堀内新泉君著

あゝ運命の寵兒たるべきか、將た運命の繼兒として永く逆境に沈淪すべきか。備矣は運命に盲従し、偉人は運命を自造す。天命是ならざるに非ず、唯自ら之を是ならしめざる而已。本書は日常實際の問題を基礎として、人格と運命との關係を詳叙し、千挫不屈の大精力を與へて、以て世に處するの新活法を説く、人格修養上速に一讀を要すべき好著也。▲菊判全一冊：體裁高尚：定價五十錢：郵税六錢

堀内新泉君著

新刊 時間活用法

「汝生命を惜しむか、然らば時を空費する勿れ、時は生命の原質なれば也」とは、是れ西哲の金言にあらずや。然り時の貴重なるは實に黄金如きの比にあらず、人生の榮辱、事業の成否、係りて時間活用の巧拙如何に在り。本書の吾人人類を益する眞に甚大なるものあらん。此書を播くこと一分時を後れらるゝの諸君は、遂に千秋悔ゆるも及ばざるの損失を招き給はんや疑ひを容れず。▲洋装全一冊：體裁清楚：定價六十錢：郵税八錢

渡邊國武氏題詞 三宅克己氏書
黑岩周六氏贊論 齋藤松洲氏書
佐々木信綱氏題 齋藤松洲氏書

好評 八版 動中靜觀

在米國茅原華山君著

德富蘆花君序

好評 再版 時文 理趣情景

角田劍南道士君著

宮内大臣田中光顯氏題字
子爵 渡邊國武氏手簡
故 原抱一庵氏序

好評 再版 陽天覽 瑤琴

龜谷天尊君著

華山先生の文は世既に定評あり西園寺陶庵侯は「恰も蘇
老泉の文を讀むが如し」と稱せられ渡邊無邊老侯は「山
間、物産生絲、湖水賦、文章華山、武官福島」と評は
れ而して黒岩派香先生は實に「其趣味の博きこと時人及
ぶ者少し」と贊論せられたり本書は先生の多様な思想史
に於て又觀察史也篇を分つこと八其趣味の多様な思想史
詞の流麗なる近時出版界の一異彩たり敢而大方の瀏覽を
俟つ。

▲洋装全一冊：三百二十餘頁：定價四十錢：郵税六錢▼
健實の想、莊麗の文、現今文壇評論家の泰斗として、よ
く理を盡し、情を察するものは、實に我劍南道士に非や
本書は君が、社會、文藝、思潮、人物等に關する獨特の
評論に、自然、人生、美術、哲理等に對する隨時の感想文、
美文等を加へ、風雲の氣、兒女の態兩つながら併せ得た
るものにして、近時文壇の大勢を知らんと欲する者の看
過すべからざる快著也。

▲洋装全一冊：體裁閑雅：定價四十錢：郵税六錢▼
本書は天尊龜谷氏が、其該博超凡の識を以て、宇宙の萬象
を遠觀し、うが胸裡の琴線に觸れて流露せし筆の跡を、
輯めて高雅なる一冊子となし畏くも、聖上、皇后兩陛下
乙夜の覽に供し奉りたるものにして、詩歌あり、紀行あり
り、漫録あり、日本新聞は「苟も天啓を知らんとするも
のには必ず一讀すべき文字なり」と稱し、毎日新聞は「讀者
をして感殆ど窮りなからしむ」と言ひ、二六新聞は「野趣
饒き文字もありて頗る多方面なり」と評せり。
▲袖珍全一冊：五百餘頁頗美製本定價四十五錢：郵税六錢▼

●本書の内容

一口劍三篇。風流佛十二段。みれん五章。

好評 三版 幸田露伴君著 はるさめ集

本書收むる所の三卷、悉く之れ明治文學史上特筆筆記す
べき希世の名作たるは世既に定評あり。而かも刊本夙に
絶わて其得易からざるを憾みとし、乃ち先生に請うて合
刻す。今や參版成る、文壇の欣陥今日より完たからむ。

幸田露伴君著

好評 三版 幸田露伴君著 潮待ち草

▲大判全一冊：希有の美裝：定價七十五錢：郵税八錢▼
潮待ち草は露伴先生の隨筆也、自然觀也、人生觀也、は
た社會百般の事物に對する觀察録也。詩を談じ、文を品
し、史を論じ、處世を説きて、眞に他の企及すべからざ
る妙趣あり。以て品性修養の資とすべく、以て後進文を
學ぶの範とすべし。附録「十偶木偶」の一篇も亦先生が近
作小説中の白眉たるもの、敢て文藝を愛好するの士の消
樂を俟つ。

阪井紅兒君書

幸田露伴君新著

近刊 頼朝

阪井紅兒君裝幀

▲大判全一冊：空前の綺裝：定價
：郵税
▼

英雄由來風流事に富む。而かも我「頼朝」の情話の如く波
瀾、曲折の妙を極めたるは、蓋し罕なり。露伴先生夙に
頭大公が情の半面に心を潜めらる、と久しく、博考考證
遂に斯の一篇を成す。然ゆるが如き青春の戀に惱める英
雄の俤は、當代の文豪が靈犀の詩筆に依つて讀者の眼前
に躍如たらむ。當に之れ近時文壇の一大偉觀!

東京開成中學校國語及漢文講師
佐藤仁之助君著

受驗
國語漢文要語詳解

●合本特製 定價壹圓 郵稅五錢

好評
再版
漢字異同辨
及用法

東京開成中學校國語及漢文講師

佐藤仁之助君校補

國語異同辨

增訂
參版
東亞堂編輯所編

本書は文學博士藤川真和先生の高見として、國語漢文會館等の遺蹟を
佐藤仁之助先生が、從來東京開成中學校に在りて、木科目の教授を執ら
り、多年の實踐に基づき、各高等學校試験問題及び教員檢定試験問題
等を參照して、中學程度より以上各高等學校入學受驗者於檢定試験問題
等々の參照に供せむため、特に數年の歳月を費し、博く各書を読み、
單語、成句、故事、熟語等の中、須要難解の語句を採り、一々明快なる解釋を
下されたるものなり。殊に國語の如きは、意義の解釋上必要なりと思
はるものには、其語原を註記し、尙其意義の變遷あるものは、條を分ちて註
釋し、更に一々書冊に徴して其文例を掲げ、且梵語等の外來語より轉じた
るものには、從來江胡に散在せる此種の考釋中未だ曾て其比を考ふる處なり
又毎語の排列は之をいはるは、五十音順未だ曾て、幼時より一に慣らされたる
學生諸子の樂出に便し、且別五十音順索引を附して、一に慣らされたる
易に搜索するを得らるゝが如き、如何に其便益の好著なるかを知らるに足
るべし。

▲國語の部……全一冊三百八十餘頁……定價四十錢……郵稅六錢
▲漢文の部……全一冊三百廿餘頁……定價四十錢……郵稅六錢

本書は同訓或は同音にして其意義を異にする漢字の異同
を辨じ、進んで一々用例を示して、懇切に應用法を説き
たるものにして世の操紙の業に従へる諸君は勿論、日常
作文の參考書として、萬人必携の寶典也。

▲寸珍クローズ洋裝全三冊二百五頁定價貳十錢郵稅貳錢

本書は國語の中に於ける同字同音の語句或は相似の文字にして其意義を
異にするもの數千百を對照し一々懇切に其異同を辨じたるものにして斯
學に於て堪能の聞え高き佐藤仁之助先生の嚴密なる校補を經且つ岡先生
の新案に成れる、便利なる假字用法及動詞語尾區別表を附したれば國語研
究者の參考として有益無比の良書也

▲寸珍全一冊……壹百九十頁……定價拾五錢……郵稅貳錢

●假字用法及誤り易
き動詞語尾區別表 全一冊 定價六錢郵稅八部迄貳錢也

文學士武島羽衣君序

新刊
和歌作法

慶應義塾
普通部國語
文科教師
志賀華仙君著

東京開成中學校國語及漢文講師

佐藤仁之助君著

新案
百人一首通解

●寸珍新形体裁典雅

東京開成中學校國語及漢文講師

佐藤仁之助君著

新刊
日本文法解義

●本文六最新式印刷

●號活字

武島先生の序に曰く「細やかにして煩はしからず、心得易
くして卑しきに流れず、この道の限々人の迷ふべき所々
を説き明らめたるは、げにをばらげならぬいたづらとや
いはまし」と、又讀賣新聞は「叙述簡略初學者の好參考
書也」と評せり。

▲中判全一冊……体裁優美……定價三十錢……郵稅四錢

心倉百人一首を、頭字に據りてあいうえお順に排列し、之
くわかり易く解釋した。百人一首を覺えるためにも、亦
和歌を習ふ人の參考にも至つて便利な可愛い本！年末歳
首の御進物用などには、外に類なき適當品です。

▲全一冊壹百餘頁……定價十錢……郵稅參冊迄貳錢

本書は佐藤先生が、從來文法書。徒らに多岐多様にして煩
瑣にのみ流れ、善く要を撮り、綱を携は、一讀直ちに其要領
を得得して實際の活用に資するもの鮮きを慨し、日頃教授
上の實驗を基礎とし、數年間に瀕りて、傍の經營を費され
たる結果從來に類例なき新式を以て編纂せられたる新著
にして且附する各種専門學校入學試験問題并に教員檢定
試験問題を以てし、各々其解答の方法を示されれば、之を
受驗準備の參考書として、將た又中學上級及び補習用等と
して參考せられれば、少くして得る處必や多きを得む。

▲洋裝全一冊……紙質佳良……定價四十五錢……郵稅六錢

文學士佐々醒雪君序

好評 七版 俳句講話

文學士沼波瓊音君著

俳句は如何にして作るべきか、俳句は如何にして味ふべきか、抑も俳味なるものは果して那邊に存するや。本書は此等一切の問題に趣味饒み解案を興へ、以て乾燥せる現時の人心に一味の清風を點せんとす。何人と雖も案頭一本を缺くべからず。

▲小杉未醒君 裝幀 美裝全一冊 定價四十錢 郵税六錢

文學士久保天隨君序

好評 三版 俳句研究

文學士沼波瓊音君著

本書は俳句の研究たると同時に、自然の研究也、美の研究也、又人生の趣味教育也。著者が筆鋒の觸るゝ所、物皆油然として俳趣を生ず。俳人たるに然らざるとを問はず、一本を緝いて、津々たる十七字詩の美漿に酔へ。

▲俳句講話同裝 美本全一冊 定價四十錢 郵税四錢

高濱虚子君新著

近刊 俳諧趣味

近時著述界の弊賣は、鮮屋にして酒を傳り、酒屋にして菓子を賣ぎ、味々として其實上高の多からむ事をのみ競ふの風が見える、であるから、實に富んだ趣味の豊かな、眞摯にして恒永な、好者の鮮いもの、無理はない處が本書は現今ホト、ギス派俳壇の雄鎮として、多年斯道の遺蹟深き虚子君が、其最専門とせらるゝ、俳諧趣味を説かれたのであるから、天下此位適當した事業は、實に他にあるまいと思ふ。サツカリの交つた鮮屋の菓子に胃腸を痛め、如何はしい瓶詰正宗に頭を悩めて御座る方々は、早く此鮮屋の今坂、眞正銘の正宗を味つて俳趣味の醇雅な滋味に舌鼓を打ち給へ

▲袖珍全一冊 裝幀風雅 定價 郵税

文學士沼波瓊音君閱

好評 再版 俳味禪味

四海庵 宮垣角人君著

俳味とは如何？ 禪味とは如何！ 蓋禪味を解するの士にして亦始めて眞の俳味を談すべし。本書は俳芭蕉によりて建設せられたる、鼓吹せられたる俳味禪味の眞髓を明にして、「寂」趣味の福音を宣傳し、極端なる物質萬能主義に茶毒せられたる現時の人心に一大覺醒を興へ、以て虚飾を去りて簡易に就かす、枯淡の生活をして趣味を生せしむ。近時思想界の革新命兒たり。

▲小杉未醒君裝幀 全一冊 頗風雅 定價四十錢 郵税四錢

讀賣新聞記者 柳塘僊史君著

新刊 漢詩講話

附俳句と漢詩

漢詩は日本文學の根柢である、古來から文章でも、和歌でも、俳句でも、悉く漢詩の有力な影響を被らぬものは少しも無い。殊に俳句の如きは性質上漢詩の日本化したものと云ふても差支へない、と云はれるのが柳塘僊史君の持論である。漢詩とは如何なるもので、如何にして之を作れり、且つ味ふべきものであるかとの問題を多邊多方面に解釋して、興味に實益を興へ、漢詩と云ふ一問題の下に文學全體を知らしめると云ふのが即ち本書の特色である。

▲洋裝全一冊 體裁瀟灑 定價五十錢 郵税六錢

楓村居士君著

新刊 椿俠雄錄

俠雄の爽快なる、佳人の雄壯なる、春夜の密談は蜜の如く、雪夜の情話は清きと水に似たり、巨賊あり、怪窟あり、男が女を得て解すべからざるは小蓮にあらずや、毒婦の奸譎、悪吏の陰謀、嗚呼危い哉東洋の老友邦！龍圖虎搏の活劇場裡に清國内地の珍習奇俗を知悉せしむるは是楓村居士が隨遊の實寫生帖也

▲阪井紅兒君畫大列全一冊 定價六十錢 郵税八錢

高濱虚子 君著
寒川鐵骨

新刊 新寫生文

坂本四方太君著
長塚節

九々庵杜南君著

●本書の内容

夢の如し 四方 歸省雜事 鐵骨。佐渡が島節。
叡山詣 虚子。本書は、現今文壇の異彩として、一
前記の四君が、代表的作品各一篇を選び、成中文壇に一
新紀元を劃せられたるものにして、近時文壇の一大潮流
を知らんと欲する士の看過すべからざる名著也。
▲全一冊紙質佳良……休載願清雅……定價五十錢……郵税六錢▼

近刊

名家
列傳 俳句大成

全一冊(印刷中)

陸軍教授
理學士 藤田外次郎君閣

新刊

百科
錦囊 ポケット 顧問

京華中學
校講師 鹿田久村君編

本書は、大は宇宙の日月星辰より電氣、空氣及び其他諸種の自然力の驚愕すべき妙用に及び、小は人事の晴天、晴嵐、賢愚等の差別の因て來る所以より、苟くも吾人が生活上に有用なる新智識は、鐵道、自動車、船舶等の交通機關は勿論、軍事、及び各種の殖産興業等に到る迄、悉く網羅して大洩さず、實に縮少せられたる最新の百科全書にして又吾人が袖中の博識なる顧問官たり、何人と雖ども、座右に一本を備へられれば其便益や盡し餘紙に盡し難きものあらん。
▲全一冊携帶至便……金文字入裝……定價卅錢……郵税四錢▼

文學士沼波瓊音君著

新刊 俳句階梯

本書は沼波文學士が、多年研鑽の結果、吾人が俳句の門に入るの手引草として、通俗平易を旨とし、口述せられたる新著にして、往古連歌俳句の沿革より、俳句の性質を詳説し、作法及作句上の諸注意、并に俳句練習の秘訣に及びたるもの、俳家必讀の良書にして又風流の道しるべたり。
▲中判全一冊……洋裝風雅……定價三十錢……郵税四錢▼

▲俱に之れ爛熳なる荒野をして馳騁たる春風を渡らしめ、枯木の生活をして趣味を生ぜしむるもの!

文學士沼波瓊音君著

近刊 默想の天地

カーライル曰ク「靜默の世界は獨り大なり」と。天地は默して言なしと雖も雄辯の極は静なきに歸す、自然の默して言なきは、豈微妙の天歌を奏しつゝあるに非らずや、此天歌や心聽すべくして、耳聞すべからず、著者の如く酒脱高逸の天歌を有するの士にして、始めて是れを詩化傳誦することを得べし、宇宙公然の秘密に侵入して、自然の妙趣を嘆賞せむと欲するものは來て本書の扉に接せよ。

▲中版全一冊……洋裝數奇……定價……郵税

文學士 大町桂月君述

新刊 作文法講話

大町先生の文章に造詣深きは世已に定評あり今その多年の蘊蓄を傾注して、文章速達の秘訣を詳述せらる、所論明快、意義懇切、言々悉く先生の實驗の餘に出づるもの、一讀直に尋常の俗書に非るを知らむ。

▲中判全一冊：定價三十錢：郵税四錢▼

◎一は作文の極徑を説くも麻姑を倚うて痒きを搔くが如く、一は四歐文學の精華を傳へて光輝燦然！

東京高等師範學校教授

戸川秋骨君述

近刊 英文學講話

全一冊(印刷中)

經世學人君著

▲文章平易……だれにも讀める▼

新刊 生活問題の解決

洋裝全一冊
ふりがな附
正價十錢
郵税貳錢

近來物價は非常の勢ひを以て騰貴し、生存競争は日に益々劇しさを加へて、少壯の米の値を知らぬ人達を除いては、何人も皆生活難に苦しまねばならぬ、今の内何とが工夫せなければ、途には二進も三進も行かぬことになつてしまふ、ハテどうしたらよいものであらう？と云うところが宛てる神あれば枯ける神で、經世學人とは世を忍ぶ假りの名、眞とは目下實業界の大立者で、若い時分には随分つらい労働などをして苦學をもされたのだが、いろく世路の險巖を経來つて、今日の地位に達せられた某君が、其の經驗の餘に得られた世渡りの秘訣を披露して、なるべく少い費用を以て豊かな生活を営む法を述べたので決して机上の空論などではないのであるから、世の人を益することは必ず鮮少でないと思ふ。『數島』一個を買ふ錢を節約して、本書一冊を求められたならば、どの位の幸福を増進し得らるゝであらうか、賢明なる讀者諸君に對して説明の裏はなからうと思ふ。

法學博士松波仁一郎先生序
明法學士原田定造先生著

近刊

手形取引の顧問

大判全一冊
金文字入美本
定價
郵税

近時經濟界の發達に伴うて、手形の取引が益々頻繁になつて來るのは自然の數だ。併しこの手形たるや、餘程注意して取扱はぬと、複雑な法律上の手續を誤つて、意外な奇禍を被ることが多い、乃ち何人と雖ども是非此手形取引に關する法律上の概念は常に養ふて置かねばならぬ譯である。本書は手形法に精通の聞え高き原田定造先生が、法律思想の乏しい人々にもよく解り易いやうに、爲替手形、約束手形、小切手、國際手形等の性質、形式、受授の手續きを説明して附するに法律用語の解釋を以てせられたもので、松波博士は本書に序して「問答體に依りて手形に關する法規の一般を平易に説明し讀者をして直ちに其知らんとする所を得せしむるは本書の特色なり」と稱せられたのである、實業家諸君は勿論、如何なる階級の人士と雖ども是非一本を備へねばならぬ。

村田犀川先生著

(明治四十一年六月上旬出來)

近刊

決斷力の養成

菊大判全二冊
定價五十錢
郵税

語に曰く「斷じて行へば鬼神も之れを避く」と、事の成ると、成らざるとは、よく其の事を斷ずると、斷ぜざるとにあり。世に高邁の俊才を抱きて、然かも常に憾軻不遇、終世録々として克く一事の成すあるなきは、何ぞ平生百事に「果斷」の二字を缺きて、且之れが養成に意を存するなきの罪ならざらむや。然らば決斷力は如何してか之れを養成すべき。曰く他なし、本書を繕きて、其の周到にして、明快なる先生の卓説に聽け!

加藤咄堂先生 共著
大住舜先生

(明治四十一年九月中發賣)

近刊
常識の基礎

菊大判全一冊
三百餘頁
定價
郵税

偉人とは最も「常識」の四端に發達せし人の謂也、とは近時意識社會の定説なり、知
べし、如何に「常識」なるもの重んずべきかを、然かも此「常識」の意義たるや、甚だ漠
然として一定し難く、論者互に區々の見を樹て、往々影を以て形となすの愚あるを
免れず、豈誰か隔靴搔痒の嘆なきを得んや。本書は現今思想界の兩照たる加藤、大住
兩先生が、其該博の才識を以て、新たに常識の基礎を確立し、精神、物質の兩界に互
りて、荷くも人類として知らざるべからざる各知識の各項は悉く細く網羅して細大洩らさ
す、即ち空前の一大新案を以て形而上學、形而下學の各料を打して一九とせざるもの
にして、本書三百餘頁は實に宇宙の萬象を包蔵せる、東西學藝のエキスと稱すと亦溢ら
の言にあらす、況んや之れを叙するに極めて平明なる時文を以てし、三尺の小童且つ美
れを解するに苦しまざるに於てをや。本書一巻を熟讀せられれば、校數十數年の勉學は
優るもの萬々ならん、常識涵養に志あるの士は勿論、何人と雖ども本書を一讀するは
人類の義務なりと知れ。

加藤咄堂先生新著

(明治四十一年十月中發賣)

近刊
修養論

菊大判全一冊
五百頁 内外
定價
郵税

修養は人生の一大事也、常に心を修養に存するものは發展し、怠る者は必ず墮落せざ
るを得ず。宜なる哉、近時人格修養を口にする者、日に其多きを加ふることや、本書
は遂に「人格の養成」を著して、我が思想界に一大反響を惹起せし加藤咄堂先生が、
其満身の心血を凝ぎて、完成せられたる大著にして古今に徹し、東西に亘りて、先哲
が修養に關する諸派の學說を討尋し、君が高邁卓犖なる識見の爐鑪に陶冶して、新た
なる修養學を樹立せられたるものにして、之れを小にしては居家處世の妙契を悟得す
べく、之れを大にしては宇宙人生の大目的に契合すべし。吾人が向上の唯一路にして、
又人物鍛鍊の好南針たり。

東亞堂へ書籍を註文せらるるの便益

東亞堂

は郵便振替貯金に加入仕居候間、御註文の簡易資料、郵便料、寄留する御便利有之候、葉書或は電話にて、御註文の書名、著者の姓名、冊數等御申越下候へば、直に現品の有無、及其代價郵税、並に御送金の手續き等に關する委細の説明書御送附申上候

東亞堂

は自店出版の書籍の外、各出版元と特約の上、博く内外の販賣致し候間、何種書籍、如何なる書店發刊の圖書を不問、陸續御註文奉願上候

東亞堂

は品切れ、又は自店に持合せなき品と雖も、御註文の簡易資料、郵便料、御便宜を圖り可申候間、何品に不拘御註文奉願上候

東亞堂

は書籍に關する讀者各位の御問合せに對しては、極めて懇切に、又迅速に御回答申上候間、必ず返信用郵券を添へ御照會被下度候

東亞堂

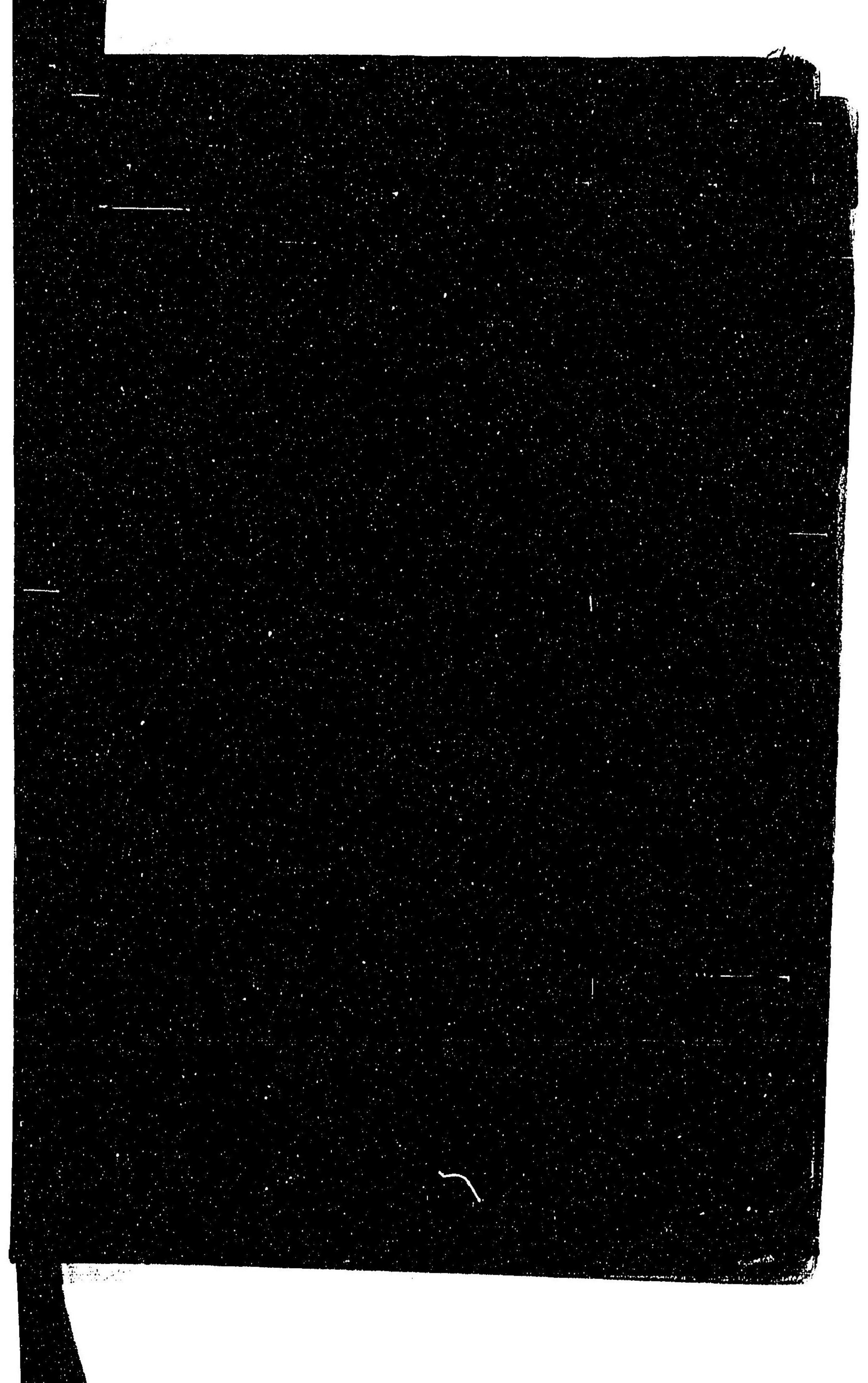
は御註文品は多少に不拘、其都度敏速に發送仕候間、代價郵税共、必ず前金を添へ、郵便爲替なれば本那、一丁目郵便取扱所取りに、郵券代用なれば一割増にて、御送附被下度候

東亞堂

は更に出版部奮て良書を發行致し、益々讀者界に貢獻仕度な候様の上、奮て良書を發行致し、益々讀者界に貢獻仕度層御愛顧之程に奉願候

東亞堂へ書籍を註文せらるるの便益

63
149



63
147

004088-000-7

63-147

偉人修養史

破魔禪／編

M41

ACE-0429



